

# 肢体不自由教育における「主体的な学び」を考える（1）

－「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づく肢体不自由教育の実践－

企画者	船橋 篤彦（広島大学大学院教育学研究科）
司会者	船橋 篤彦（広島大学大学院教育学研究科）
話題提供者	内田 俊行（広島県教育委員会特別支援教育課） 山田 裕一（広島県立広島特別支援学校・広島大学大学院教育学研究科） 大畑 美帆（広島県立福山特別支援学校） 三戸 昭代（広島県立広島特別支援学校）
指定討論者	一木 薫（福岡教育大学特別支援教育講座）

KEY WORDS: 肢体不自由教育, 主体的な学び, 準ずる教育, 自立活動

## （企画趣旨）

次期学習指導要領の公示に伴い、現在、「主体的・対話的で深い学び」の在り方について、様々な意見交換や議論が交わされている。中でも、特別支援学校に在籍する肢体不自由や重複障害のある児童生徒の学びについては、児童生徒の学習課題が多様であることから、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」も含めた「主体的な学び」の創出が教師・学校組織に求められてくる。そこで、次期学習指導要領の施行を見据え、肢体不自由教育における「主体的な学び」の在り方を協議・提案することを目的とした継続的な議論の場を設ける為、本企画を立案した。初回となる今回は、広島県が独自に取り組んでいる「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づく、肢体不自由教育の実践について紹介し、協議を行うこととしたい。

本企画の進行として、冒頭に企画者より、次期学習指導要領をめぐる議論の動向などを簡潔に整理する。続く、話題提供では、4名の話題提供者より、肢体不自由教育における「主体的な学び」の考え方・実践報告を行う。指定討論では、話題提供の内容を整理した上で、フロアを交えた議論の焦点を明確にしていくこととする。

（話題提供：内田 俊行）

広島県では、平成26年度より、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき、県内の各学校において「主体的な学び」の実践を展開している。本発表では、特別支援学校（肢体不自由）における「主体的な学び」の現状、今後の課題について報告を行う。

（話題提供：山田 裕一）

重度・重複障害児は発達の状態が発達初期段階に該当し、健康状態に課題がある場合も少なくない。こうした児童生徒の「主体的な学び」を引き出すためには、健康の保持や身体の動きの指導を基盤

にしつつ、学びの履歴や周りの環境とのやりとりの様相が個々に大きく異なることを踏まえる必要がある。ここでは、重度・重複障害児の個に応じた「主体的な学び」の捉え方や視点について報告する。

（話題提供：大畑 美帆）

学習の基盤を構築させることによって、学習習慣を確立させ、学ぶことに対する楽しさや喜びを児童自らが実感できるようになった事例について報告する。また、学校の教育活動全体を通じて、「わかった・できた」を児童生徒が実感できる取組を行ったことや、学校だけではなく家庭でも児童が主体的に学ぶようになった手立て及び指導について報告する。

（話題提供：三戸 昭代）

肢体不自由特別支援学校高等部では、生徒の多様化する実態や進路希望に対応できる教育課程を編成し、「生きる力」を培う確かな学力を育成する必要がある。そのためには、思考力・判断力・表現力の育成をはかり、「主体的な学び」を促す学習活動を重視していかななくてはならない。本報告では、国語総合における古典の読みを深め、肢体不自由のある生徒の思考力・表現力を伸ばしていく指導について報告する。

（指定討論：一木 薫）

肢体不自由教育におけるこれまでの課題、とりわけ、教育課程編成や教育内容の精選について、その課題を整理する。その上で、四名の話題提供者の内容が、今後の肢体不自由教育における「主体的な学び」にどのように貢献するのかについて討議を行うこととした。

（FUNABASHI Atsuhiko, UCHIDA Toshiyuki, YAMADA Hirokazu, OHATA Miho, MITO Akiyo, ICHIKI Kaoru）